

「らしき」輝く附属小



第11号 令和7年 6月20日(金) 校長 森内 秀学

アバターで交流

「アバター」という言葉をご存じでしょうか。映画のタイトルにもなったこの言葉は、「インターネットやバーチャル空間における、自分の分身としてのキャラクター」の意味でよく使われています、

6/13(金)は、その「アバター」を使って福島県川内村の子どもたちと交流学習をしました(右)。

8/9(土)の平和記念式典への出席に合わせて福島から来校される予定なのですが、その前に仲良くなっておこうという作戦です。私は、顔が分からない子ども同士が、アバターを通して話をして、本当に仲が深まるのかと疑問に思いながら様子を見ていました。ところが実際は、「顔が分からないからこそ自分のことを正直に話せる」といった感じで、すぐに仲良くなっていました。最近、アバターを使った不登校支援が広がっている理由が、少し分かった気がしました。

今、子どもたちは、現実と仮想空間を、自由に行き来して暮らしています。だからこそ、その違いを理解させながら、両方の世界で生きていける力を育みたいと思います。



水泳指導開始

雨が上がり、奇跡的な気温上昇も手伝って、6/13(金)からようやく水泳の学習が始まりました。泳げるかどうかは、場合によっては命を守るかどうかに関結します。水と触れ合う機会が多い時期が近付いていますので、少しでも命を守る力がつくよう指導していきます。

金管バンドが出港セレモニーで演奏

6/15(日)18:40から、松ヶ枝ターミナルで外国の客船の出港セレモニーが行われ、本校金管バンド部が演奏しました(右)。外国の方が、デッキで手拍子をしたり体を揺らしたりしながら聞いてくださっている姿を見ると、音楽に国境はないんだと感じました。演奏もさすがでしたよ。

